

政策	21 暮らしやすい都市の創出						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	有	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	定住の場や就業の場としての利便性が確保された計画的な土地利用や道路網整備の推進を図る。 本市を特徴づける資源を活かした魅力的な景観や街並みの形成を図る。 誰もが快適に暮らし続けることのできる良質な住環境を確保する。 日常生活の足となる身近な公共交通サービスの充実を図る。						
成果指標	道路の整備・保全に対する市民満足度...5年間で60.0%（現状値50.2%） 美しい景観形成に対する市民満足度...5年間で65.0%（現状値58.0%） 公共交通の充実に対する市民満足度...5年間で60.0%（現状値42.6%） 専用住宅の年間新築戸数...5年間で840戸（現状値804戸）（指標単位：戸）						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定					60.00
		実績					
	成果指標2 [%]	予定					65.00
		実績					
	成果指標3 [%]	予定					60.00
		実績					
	成果指標4 []	予定	510.00	813.00	822.00	831.00	840.00
実績		778.00	739.00				
トータルコスト (千円)	予定	1,330,515	1,438,873	0	0	0	
	実績	1,514,414	1,329,832	0	0	0	
内部評価	貢献度	基本施策「暮らしやすい都市の創出」を実現するための取組として、各単位施策は重要な要素であり、基本方針「心地よく暮らせるまちづくり」に大きく貢献するものである。					
	達成状況	成果指標「専用住宅の年間新築戸数」については未達成となったが、各単位施策は概ね目標通りのペースで進捗している。					
	課題	目標未達成の単位施策については、利用を促進し目標を達成するため、施策内容の情報提供や周知を図るとともに市民の利便性を向上するために見直しを行う必要がある。					
	取組方針	市民へのPR不足が否めない施策は、従来の方法にとらわれず積極的なPR活動を行う。また、市民の利便性向上のため必要に応じ路線の見直しなど施策の見直しを行う。					
外部評価	本施策の成果指標である市民満足度については、市民アンケートの結果を見なければ分からないが、内部評価と下位の単位施策の達成度を見ると概ね順調に推移していると思われる。しかし、目に見える成果が薄いと満足度の向上に疑念を感じる。 特に公共交通の充実において、ふれあいバスの利用状況が相変わらず低く、空車で走っているのをよく見る。コース等を含め更なる路線の見直しが必要である。 また今後の超高齢化社会を迎えるにあたり、自宅から目的地までの交通手段である蔵タクの利用が増えることが想定される。蔵タク事業については、更なる利用促進を目指し、利用方法や利用にあたっての注意点等の周知が必要である。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	2101	都市基盤の充実				590,616	100
	2102	景観形成の充実				56,551	100
	2103	定住環境の整備推進				361,187	99
	2104	公共交通体系の充実				321,478	98